



新星

Shinsei
2019 Vol. 31

2019年8月19日 発行

医療法人 厚生会 道ノ尾病院「新星」Shinsei編集部
〒852-8055 長崎市虹が丘町1番1号
TEL 095-856-1111 FAX 095-856-4755

題字：松本 尚美子



CONTENTS

- 2 新しい精神科医の紹介
- 3 第26回院内研究発表会の報告
- 4-5 精神科医新副院長のご紹介
- 6 精神医学・心理学講義の紹介／MSPA講習会に参加して
- 7 職員の食を支える調理師のこだわりカレー／
平成31年度看護職員合同就職説明会を終えて
- 8 デイケア「やわらか頭教室」のご紹介

基本理念 患者第一主義

基本方針

- 挨拶と笑顔をもって皆様（患者・家族）に接します
- 疾病や治療に対して十分な説明と同意に基づき、患者本位の医療を提供します
- 患者の権利を認識し、尊重します
- 地域における責務を認識し、開かれた病院を目指します
- 職員研修を行い、常に研鑽に努めます
- 健全な病院経営に努めます
- 患者の社会復帰に努めます

新しい精神科医の紹介

精神科医 桑野 信貴

はじめまして。2019年4月より道ノ尾病院で勤務しております桑野と申します。2010年に大学を卒業後、2年間の臨床研修を経て、九州大学精神科神経科の医局員として福岡県内の総合病院精神科や精神科病院で勤務し、2016年からは大学院でうつ病に関する血液バイオマーカー探索研究に携わっておりました。今回、妻の地元である長崎への転居を機に、こちらで勤務させていただくこととなりました。初めての長崎生活で、あらゆることが一新されての毎日です。

実際に道ノ尾病院で勤務をしていて私が感じたことは、患者さんの精神疾患についてはもちろんですが、身体疾患に対する治療も大変充実している、ということです。身体科の先生が患者さん一人一人に担当医として治療に関わってくださり、さらには関連病院である虹が丘病院との連携があります。患者さんは、精神疾患だけでなく、糖尿病や高血圧などの生活習慣病をはじめとした身体疾患をわずらっていることがしばしばあり、また、精神科での治療の経過の中で時に身体疾患の治療が中心になることもあります。このような時、精神と身体の両面から適切な治療ができるように整えられた道ノ尾病院の体制は大変心強いです。近年、例えば生活習慣病がうつ病のリスクであるように、これまで中枢領域の疾患と考えられてきた精神疾患が、末梢との相互作用の中で病態を形成している可能性が示唆されています。こうした点からも、精神と身体の両面に対して治療環境が充実していることは、大変意義があることだと思います。

まだまだ慣れない中で日々働いておりますが、皆さまのお役に立てるように頑張りたいと思います。温かく見守っていただければ幸いです。また、長崎の楽しさを色々とお教えいただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。





第26回院内研究発表



- 6 / 3
1日目
- 1席 C-3 川上 服薬自己管理アセスメントシートを用いてみえてきたもの
～服薬自己管理に関する意識調査と意識変化～
 - 2席 C-5 濱田 精神科看護師が抱く不安
～自信を持って安全な看護を提供するために～
 - 3席 C-4 小森 アルコール依存症に対する病棟スタッフの陰性感情
～意識調査でみえたもの～
 - 4席 DC 扇 ADHD専門外来におけるデイケアプログラムの立ち上げについて
～開設から実施までを振り返って～
 - 5席 B-2 黒岩 認知症患者の身体拘束解除への取り組み
～開放観察の拡大に伴う患者の変化新たな問題点～

- 6 / 5
2日目
- 1席 B-1 本田 褥瘡ケアに使用するドレッシング材の周知方法について
～意識向上に対する取り組み～
 - 2席 B-4 堤 抗精神病薬を長期に服用している患者の便秘に対する意識
付けの取り組み
 - 3席 B-3 灰田 知的障がい者に対する
認知行動療法のアプローチ
 - 4席 B-3 神田 転倒・転落防止に向けたKYTの効果
～リスクセンス向上を目指して～

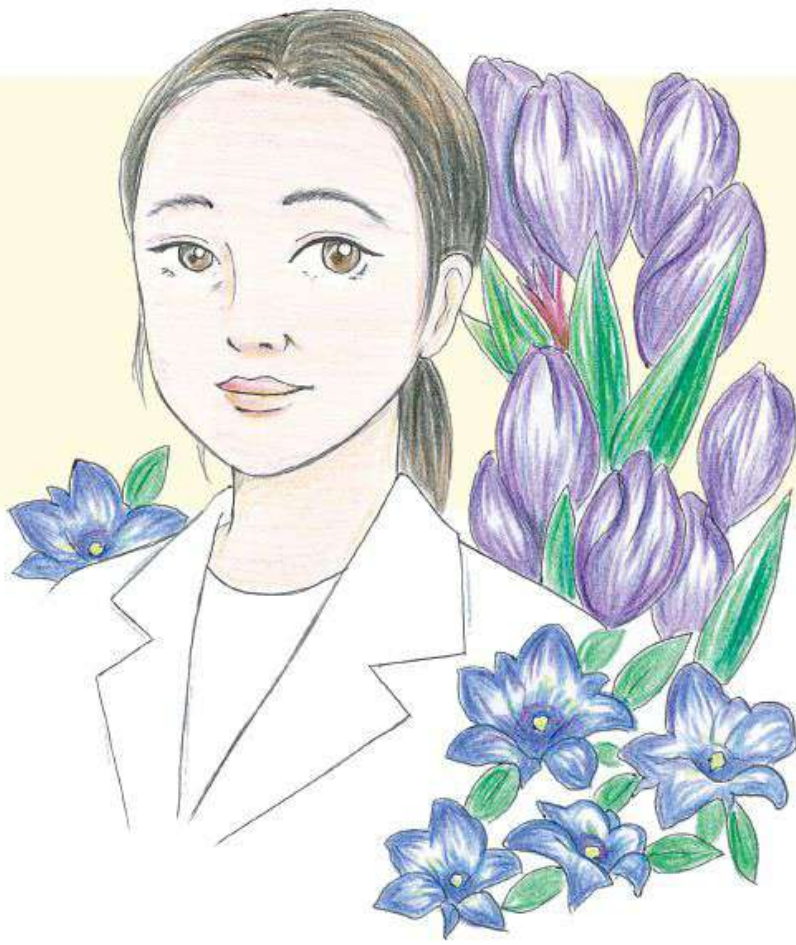
講評

日々の業務の積み重ねを看護研究で振り返りまとめる事は、看護の質の向上につながります。

今回の研究発表は多岐に渡る看護実践の中からのもので素晴らしい出来栄でした。

今後更に、学会発表に繋げることを期待しています。





精神科医副院長 就任のご紹介

精神科医 副院長
畑田 けい子

平成31年4月1日付で副院長を仰せつかりました畑田けい子です。

平成2年に医師となり、私が初めて道ノ尾病院で当直をさせていただいたのが、確か平成3年でした。当時は古い病棟で、当直室は畳部屋でした。初めての当直の日、先輩の先生から「夜になると当直室に飾ってある絵の女性が笑うんだよ」とおどされ、びくびくしながら当直に来たことを思い出します。

それから28年が経ちました。病棟は新病棟に建て替わり、日本の精神科医療も入院中心から地域での生活重視へと大きく変わっていきました。

その間、数えきれないほどの患者さまに出会い、多くの臨床経験を積ませていただき、精神科医として成長させていただきました。日々、さまざまなことが起こり、患者さまには驚かされることの連続でした。

20年以上前、こんなことがありました。私が妊娠6週目ごろのことです。6週目ですから当然、外見では妊娠していることはわかりません。つまりもなく、通常となんら変わらない生活をしてい

ました。ある日、私が女性病棟の廊下を歩いていると、患者のAさんが向こうから歩いてきました。Aさんは長期入院中で、保護室処遇の方でそのときは、一般室で過ごされていました。私が主治医ではありませんでしたので、ときおり挨拶をする程度でした。そのAさんがすれ違うときに「先生、妊娠したと？おめでとう」とおっしゃったのです。私はびっくりして「あ、ありがとうございます」と言うのが精いっぱいでした。なんでわかったのですか？と聞いてもAさんは笑って立ち去ってしまいました。Aさんがなぜ私の妊娠がわかったのか、今でもわかりません。後日、Aさんにお聞きしましたが、Aさんは覚えていらっやいませんでした。また、これも15年ほど前のことですが、精神症状が悪く長期間拘束処遇をしていたBさん。ほとんど疎通がとれず、会話が成立しない状態でしたが、ある日、私の顔を見て「先生、きつそうだね」と一言おっしゃいました。その後の会話は続かず、その一言で終わってしまいました。ちょうど私は家族の不幸があり、とても疲労している状態だったので、それをBさんが気付いたことに実に驚きました。

同じような経験を、私は道ノ尾病院で何度もしてきました。

私は、AさんやBさんのように、すべての患者さまには、こうした目にみえない、科学的には証明しようのない力が潜在的にあると思っています。著名な精神科医の中井久夫先生が、ご著書の中で

「自然治癒力」について話されています。患者さまのだれにでも「自然治癒力」がある、と。

AさんやBさんの言動も、この自然治癒力によるものではないか、と思うのです。

精神科医療は日々変化し、新しい薬物が登場し、治療方法も発展してきています。でもこの自然治癒力は昔から変わらぬ、普遍的で永遠のものです。

そして、患者さまのこの自然治癒力を最大限に引き出し、病気の回復に結び付けていくことが私たち医療者の使命だと考えています。

精神科は他の科と違い、疾患だけでなく、患者様の生活全体をみていかななくてはなりません。バランスのとれた食事をしているのか、入浴はできているか、着替えはできているか、生活費は足りているのか、爪は切っているか、髪は伸びていないか、自宅に段差はないか、階段は急ではないか、家族との関係は良好か、友達付き合いはどうか、などなど。病気の症状より、こうしたことを聞くことに診察の多くの時間を割くことが少なくありません。

私は病気だけではなく、その患者さまの生活全体を支えることができる医師でありたいと思っています。

また、病院の多くのスタッフにも助けられてきました。治療は時に長期にわたります。そんな時、私があきらめかけていると、あきらめてはいけないと私の尻を叩いてくれるのもスタッフです。長く笑わなかった患者さまが笑ってくださったとき、食事をとらなかった患者さまが特別流動食を飲んでくださったとき、自室からなかなかでてこなかった患者さまがホールでテレビをみるようになったとき、そうした些細な変化を嬉しそうに報告する看護師さんの笑顔が私は大好きです。

末筆ではございますが、これまで出会った多くの患者さま、そのご家族、病院の先生方、スタッフの皆様に心から感謝いたします。

これからも微力ながら、患者さまのため、病院のため、精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



当院のスタッフ向けに、毎月『精神医学』（前期：4月～9月）と『心理学』（後期：10月～3月）の講義を行っています。これは、大学教員をしていた頃に、前々院長の松本新先生と現理事長の松本純隆先生から依頼され昭和55年（1980年）に始め、今年で37年になります。

発足当時は、現在のようにスタッフ向けの研修会や勉強会が無く、新鮮だったこともあり、毎回50人から100人近くを受講者がいました。今では、看護部主催の勉強会や研究発表会が増え、またチーム医療としてのケーススタディなど多くの勉強会が開かれるようになり、私の講義が果たしてどのような役割を担えるのかと疑問を感じたこともありました。それでも「是非勉強会を続けてほしい」という声もあり、『継続は力なり』と新しい視点で新たなテーマを探し、講義内容も毎回変えて実施し続けています。

当院はこれからも、新たな精神医学や臨床心理学、臨床看護学、精神科領域の社会福祉学などを積極的に取り入れていく必要があります、その担い手の一つとして、この勉強会が続いていけば幸いです。後進の心理スタッフも増え、彼らに少しずつ譲っていきながら勉強会を存続していきたいと考えています。

【講義内容】今年度の実施内容と予定

○ 前期 - 精神医学編 -

- 4月 統合失調症とは何か
 - 5月 精神分裂病から統合失調症へ
～疾病モデルと用語の変遷～
 - 6月 統合失調症の病名告知
～新しい治療への展開～
 - 7月 統合失調症の寛解・病識
 - 8月 統合失調症の社会適応と再発予防
 - 9月 統合失調症のリハビリと社会参加
- *10月からは心理学編がはじまります。

MSPA講習会に参加して

臨床心理士 井上 拓哉
臨床心理士 御所 美智子

今回4/26～27日の合計2日間、京都で開催されたMSPA講習会（会場：京都国際社会福祉センター）に参加させていただきました。MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) は、面接と質問紙を通してご本人の特性のばらつきを多面的に評価する検査です。

この検査の特徴は発達障害という診断名にこだわらず、ご本人の特性から予想される困りごとがどれほどご本人やご本人の周囲の方の生活に影響を与えているかを理解することができる点にあります。また困りごとへの対応策をご本人、支援者間で共有する際に用いることができる点や、診断名にこだわらないために医療分野以外の専門家間でもご本人の相互理解が可能になることも特徴的であると考えられます。この検査は発達障害の方の受診相談や診断、その後の支援までの流れの中で多くの時間が必要になってしまうことを防ぐた

めに開発されています。

講習会には医者や臨床心理士、作業療法士、教員など様々な職種が参加されていたため、さまざまな意見交換もでき、とても有意義な研修会となりました。今回の研修会で学んだことを今後の検査に生かし、困っているご本人やそのご家族への支援につなげていきたいと思えます。



この大鍋（蒸気窯）で1000人分のカレーをつくります。
大量に作ることで味にコクが
出るのだそうです



身体によくて美味しい物を気持ちよく食べてもらいたい

栄養課調理師 堀田 徹

- ①カレー本来の味を大事にする。 道ノ尾病院ではカレーのビーフカレー、ドライカレー、夏野菜カレー等多くあります。その種類によって醤油、ケチャップ、こしょう、ナツメグを分量、味に応じて適量で調整しているそうです。
- ②材料に応じて野菜を炒める順番を変えている。
- ③味付けは2種類のカレールーを3：7の割合で使っている。

堀田さんの好きなカレーは「ポークカレー。一番味が出ます」。また、カレー以外の得意メニューは「どんぶり物で、親子丼や中華丼、煮物」とのことです。

いつも、美味しいカレーをありがとうございます。お昼ご飯がカレーというだけで1日幸せな気分になってもらっています。業務を拝見して、簡単なお仕事ではないと実感いたしました。これからも美味しい給食を楽しみにしております。

栄養課の堀田さんは調理師歴が50年。そのうち道ノ尾病院には約42年勤務されています。入職前にはレストラン、ホテルにも勤務されていました。ご自身の源流は“母の味”で、レパートリーが多く、工夫をして料理をされるお母様の影響を受けているとのこと。

道ノ尾病院の人気メニューでもあるとても美味しい“カレーライス”の味付け等工夫をお尋ねしました。

平成31年度 看護職員合同就職説明会

主催：長崎県福祉保健部医療人材対策室

日時：令和元年5月25日（土）13：00～16：30

会場：長崎県庁内大会議室ABC及びエントランスホール

令和元年5月25日（土）長崎県庁にて「平成31年度看護職員合同就職説明会」が開催され当院から看護師5名で初めて参加しました。

合同説明会には、県内から病院をはじめ訪問看護ステーション・老人ホームなど51施設が参加しており、看護大学・看護専門学校の学生に対し自施設のPRを行っていました。

当院のブースにも「精神科に興味があります」と多くの学生の方々が話を聞きに訪問され、若手看護師の実体験を交えた「当院は、働きやすく働き甲斐がある病院ですよ」との話しを真剣に聞いて下さり、本当にありがたい限りでした。



やわらかあたま教室

令和元年5月16日よりデイケアのプログラムの一環としてやわらかあたま教室を開始致しました。やわらかあたま教室とは、メタ認知トレーニングを基にした活動です。

メタ認知トレーニングとは、参加者が自分の認知バイアス（物事の見方や判断に関する偏り）に無理なく気づくことで、精神症状の悪化を防ぐことを目的としてドイツで作成され、その後、世界中で利用されている新しいプログラムです。

やわらかあたま教室では、よりよい生活をめざすための、あたまのストレッチを目的としてクイズやアンケートに答える形式でいろいろなテーマにとりこんでいます。



- ◆ 実施日：毎週木曜日（全8回）13：30～14：30
- ◆ 参加対象：柔軟な考えができるようになり、よりよい生活をめざしたいひと
- ◆ 参加者：7名

やわらかあたま教室
では
さまざまなテーマに
取り組みます。

テーマ	クイズ・アンケート	ポイント！
「原因探し」	「原因は？」	たくさん思いつく！
あわてちゃいけない	「これは何？」	あわてない、あわてない！
状況がわかる	「どんな状況？」	決めつけない！
気持ちがわかる	「どんな気分？」	想像力や経験をつかおう！
記憶	「何がありましたか？」	記憶には間違いもある！

*アンケートでは、前半はテーマの要点がまとめられており、後半はテーマの内容に沿って自分の日常生活を振り返る課題が設定されています。

◆参加メンバーの感想…

- 自分の考えが偏っているなと思った。
- 例題が難しかった。
- 丁度頭を使わなきゃと思っていたからよかった。
- 最初は退屈だったけど楽しかった。
- クイズよりもアンケートのような日常生活に当てはめて考える課題が難しいなど…

◆実施してみて…

元々ドイツ人を対象にして開発されているプログラムであるため、スライドで提示された例の中には分かりづらいと感じるものやスライドの絵が日本人になじみにくいものがありました。そのため、それぞれのテーマの司会者には興味や関心に合わせて適切に言葉やスライドを選ぶ柔軟性が求められると感じました。中には過去の体験を振り返り、「あの時はこういう状況だったんだ」と納得できたり、以前と同じ状況になっても、柔軟な考えができるようになったと話すメンバーもいて、効果を得ているように感じます。

臨床心理士 御所 美智子



©2010 VVN

道ノ尾病院はV・ファーレン長崎を応援しています



医療法人厚生会

- 道ノ尾病院 ○虹が丘病院
- みちのおメンタルクリニック
- 宿泊型自立訓練事業所 ふれあい
- 就労継続支援B型・就労移行 ワークステーションかいこう
- 訪問看護ステーション すみ香
- ヘルパーステーション にじいろ
- 相談支援事業所 にじいろ ○居宅支援事業所 にじいろ
- れいんぼうハウス滑石

社会福祉法人新生会

- 特別養護老人ホーム 望星荘
- 障害者支援施設 虹が丘学園

【医療法人厚生会 道ノ尾病院ホームページ】
<https://www.michinoo.or.jp>

道ノ尾病院

検索



モバイルの方



スマートフォンの方

パソコン・スマートフォン向け

道ノ尾病院 新着情報通知のお知らせ

道ノ尾病院HP上に出るポップアップを通知許可していただくと以降、新着更新情報をプッシュ通知で受け取ることが出来ます！

パソコンやアンドロイド端末はアプリ不要で直接プッシュ通知を受け取ることが可能です。

※iOS端末（iPhone・iPad）は「みんなのお知らせ」アプリをインストールし、お知らせ通知を許可するだけで以降、直接プッシュ通知を受け取ることが可能です。



通知許可ボタン表示